

開会挨拶

◆村上

専修大学社会科学研究所の所長を勤めております村上と申します。本日は公開シンポジウムにお越しいただきどうもありがとうございます。

社会科学研究所は、1949年に設立されまして、一時休止期間があり、1963年から再スタートをしました。ですから、そこから数えましても53年の歴史があり、専修大学の研究所の中では最も古く、かつ所員も約170名、参与および客員研究員を入れますと、メンバー総数280名を超える学内最大の研究所です。研究所ではメンバーの研究活動を支援し、その成果を月報、年報あるいは叢書といった出版物や本日のようなシンポジウムによって公開しているところです。今回は「格差の諸相」と題しましてシンポジウムを企画しました。メインスピーカーとして現在、分断社会について出版物のみならず、新聞やテレビなどでも、さまざまな媒体を通じて現代社会の問題性を明らかにされている、井手英策慶応大学経済学部教授をお招きし、さらにわが研究所からは、福島利夫、高橋祐吉、小池隆生所員が、拡大する現在の社会的格差についてさまざまな角度から、論じていきます。全体で3時間という少し長い時間になりますが、間に休憩を置きながらやっていきますので、講演者の方々、それと本日お越しいただきました皆様方、どうかよろしくをお願いします。(拍手)

◇司会 はい、それではそろそろご報告、慶応義塾大学経済学部井手英策先生に「分断社会を終わらせるー『だれかが受益者』から『だれもが受益者』へー」というテーマでお話を頂きたいと思います。それでは先生、よろしくをお願いします。

